

水中ドローンや360度カメラ...

ハイテク釣りでボウズ知らず

水中を潜航するドローン、360度高性能カメラ、超音波で魚を捉える魚群探知機……。様々なハイテク機器を活用して魚釣りを楽しむ人が増えている。これまでの勘や経験に頼っていた釣りから一歩進んで、綿密に調べ魚を釣り上げる。現代の太公望の決め手は情報だ。

ウイスキー、3店巡ろう

英国スコットランドに本店がある「ハイランダーイン」は2005年に「中野坂上店」(東京・中野)、19年に「人形町店」(東京・中央)と「秩父店」(埼玉県秩父市、0494・26・7901)を開業し、ウイスキーファン注目の店として人気がある。



30日まで3店舗を1日で巡る「ハイランダーインチャレンジ」を開催。各店舗でウイスキー「アランモルト」を飲むことが条件で、制限時間は24時間。達成者には認定カードなど進呈。抽選でレアなアランモルトフルボトルも当たる。3店舗の特色を楽しむ、異なる地域をハイランダーインがつなげる役目を果たせたらと期待する。

いち早 Check

色とりどり「ふくろ絵馬」

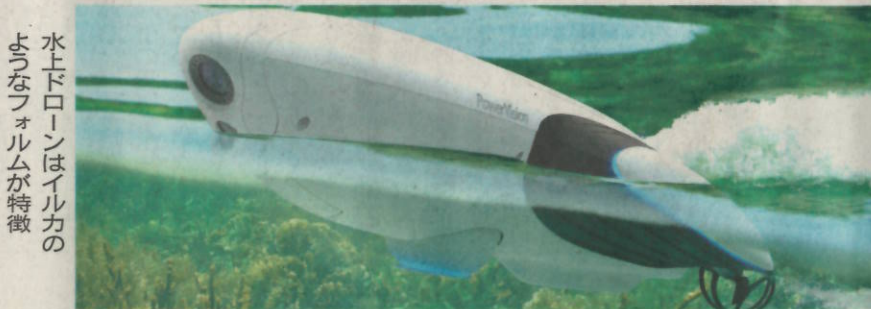
絵馬に願い事を書いて神社に奉納した人も多はず。さいたま市大宮区にある武蔵一宮氷川神社 (http://musashiichinomiya-hiikawa.or.jp/) では、境内にある絵馬の納め所が撮影スポットとして人気になっている。



納め所には絵馬を収納した色とりどりの巾着が下がり、その美しい光景に思わず足を止めてスマートフォンで撮影する参拝客も少なくない。神社が「ふくろ絵馬」と命名したこの絵馬は、絵馬をかたどった厚紙に願い事を書き入れ、ちりめんの巾着に入れて奉納する。巾着は10色ある。絵馬に記入した個人情報の漏洩を防ぐため、この方法を思いついたという。初穂料は500円。



魚探や水中ドローン、360度カメラなどを使いデータを集め釣りをする中山聡さん(徳島県松茂町)



水上ドローンはイルカのよつなフォルムが特徴

居場所、データで丸裸

愛用の黒のカヤックには、数日前に手に入れたばかりという米国製のハイテク魚群探知機が取り付けられている。机の上には、白いフォルムが美しい中国製の水上ドローンと水中ドローン。四角い小型の機器は360度映し出す高性能の米国製カメラだ。
プロアングラー(釣り師)、中山聡さん(40)の仕事部屋には、世界中の釣りのハイテク機器が並び、「海底の地形や潮流などで魚がいつごろ釣れるかは、よほどの経験がなければわからない。ハイテク機器はこうした点を補ってくれる」
中山さんの機器の使い方はまず、水上を走る探知機を搭載したドローンを使い、釣りの地形を大まかに把握する。
魚は地形に変化があるところ、隠れ場所になる岩や藻があるところなどに集まることが多い。水中に潜るドローンやカメラを駆使し手元のスマホに映像を映し出しながら

気になる場所を詳細に調べ。
「これまでの釣りは勘と経験に頼っていた。ハイテク機器で実際に調べて見ると、定説とされることが間違っていることも多い」と言っ。
中山さんが使っている水中・水上ドローンは、中国のメーカー、パワービジョンが開発したもの。特に水面を走る水上ドローン「パワードルフィン」(9万円台から

は、釣り向けドローンとして開発し、5月に日本で売り出した。「今までの釣りと違ってきた新しい体験を提供したい」(パワービジョンジャパンの張立超セールスマネージャー)
パワードルフィンは全長約50センチの流線形。手元のスティックで操作して水上を走らせることができる。正面にはライトと可動式のカメラがついて

太公望は助かり魚は受難 時計型探知機も→

10月下旬、神奈川県、浦賀に近い馬堀海岸。戸津琢さん(46)と友人3人が乗るボートが海岸から沖へと滑り出た。今日の狙いはアジ。海の中を群れで泳ぎ回る回遊魚だけに、魚がいる場所にボートを寄せるのが最も大事となる。
戸津さんの腕に巻かれたのが「ぎよぎよウォッチ」(2万円前後)。時計型の魚群探知機だ。これまでの魚群探知機は、親機の情報を子機やスマホに送るスタイルがほとんどで、小型のウェアラブル機は珍しい。
「魚がいると音が鳴って教えてくれるんだけど、今日はなかなか鳴らないなあ」。戸津さんはボートをいろいろな位置に移動しながら、やや反応があった場所をいかりを下ろし、釣り糸を垂らす。

おり、水面や水中を撮影して手元のスマホに映し出す。本体後尾にルアー(疑似餌)やまき餌を取り付けられることができ、投げざおでは届かない距離まで探ることができる。
「自分が普段想像している海の中を実際に見てみたい、というニーズは強い。パワードルフィンも人気で品切れし、ようやく入荷し始めた」とドローン専門店ジュンテックノサービスの引野潤社長は話す。
ぎよぎよウォッチを開発したのは、マックルーズの渡辺一平社長。クラウドファンディングで出資者を募り、中国製の製品をベースに日本向けに改良した。自身も大間にマクロを釣りに行くほどの釣り好きだ。ぎよぎよウォッチは9月から一般向けに販売を開始した。

ぎよぎよウォッチを使ってアジをつり上げた戸津さん(写真上) 釣り糸を持ちながらも見やすい(同下)

